資料 1

提　　言　　書（案）

「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について

平成28年11月11日

県政運営評価戦略会議

は　じ　め　に

県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）では、「新未来『創造』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）の主要施策を評価の対象とし、今年度においては、行動計画の深化につながるよう、「平成２７年度の取組及び進捗状況」と「今後の取組方針」の２つの視点から評価するとともに、戦略会議の委員の提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施しました。

また、とくしま目安箱などに寄せられた「県民からの意見・提言」についても戦略会議で審議し、県の施策に反映すべき優れた意見・提言として１１件を選定いたしました。

これらの評価結果等について、提言書として取りまとめましたので、徳島県総合計画審議会において、速やかに御協議いただき、進化する行動計画として「既存事業の見直し」や「新たな施策・事業の展開」につなげていただきたいと考えております。

平成２８年１１月１１日

県政運営評価戦略会議
会　長　　石田　和之

目　　次

Ⅰ　行動計画の評価について　……　１頁

１　評価方法について　……　１頁

（１）評価対象　……　１頁

（２）評価の視点　……　１頁

（３）評価基準　……　１頁

（４）評価手順　……　１頁

２　評価結果について　……　２頁

（１）総括　……　２頁

（２）基本目標ごとの意見・提言　……　３頁

（３）行動計画への反映について　……　５頁

Ⅱ　「県民からの優れた意見・提言」の採択について　……６頁

（参考）
委員名簿　……８頁

（別冊）
「新未来『創造』とくしま行動計画」　主要施策等評価シート

Ⅰ　行動計画の評価について

１　評価方法について

（１）評価対象

行動計画に位置付けられた主要施策（１４４施策）を対象とした。

（２）評価の視点

行動計画の深化につながるよう、「平成２７年度の取組及び進捗状況」と「今後の取組方針」の２つの視点から評価するとともに、戦略会議の委員の提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施した。

（３）評価基準

評価については、次の基準に従い、Ａ、Ｂ、Ｃの３段階で評価した。

Ａ：順調、Ｂ：概ね順調、Ｃ：要見直し

		平成27年度の取組及び進捗状況		
		良好（☆☆☆）	概ね良好（☆☆）	不十分（☆）
今後の取組方針	妥　当	A	A	B
	概ね妥当	A	B	C
	不十分	B	C	C

（４）評価手順

あらかじめ担当部局が作成した主要施策ごとの「評価シート」に基づき、戦略会議の委員の代表者が作成した「評価案」について会議の場で議論し、「評価結果」として取りまとめを行った。

戦略会議の開催状況

	日　　程	評　価　対　象
第１回	８月　２日（火）	基本目標１及び２
第２回	８月　９日（火）	基本目標３及び４
第３回	８月１９日（金）	基本目標５、６及び７

２　評価結果について

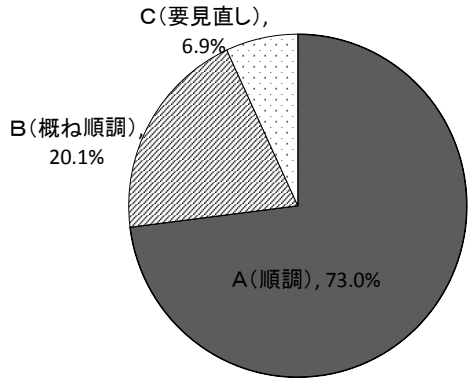
（１）総括

戦略会議での評価結果は、
「Ａ（順調）」と評価されたものが１０５施策（73.0%）、
「Ｂ（概ね順調）」とされたものが２９施策（20.1%）、
「Ｃ（要見直し）」とされた ものが１０施策（6.9%）
となった。（表－１）

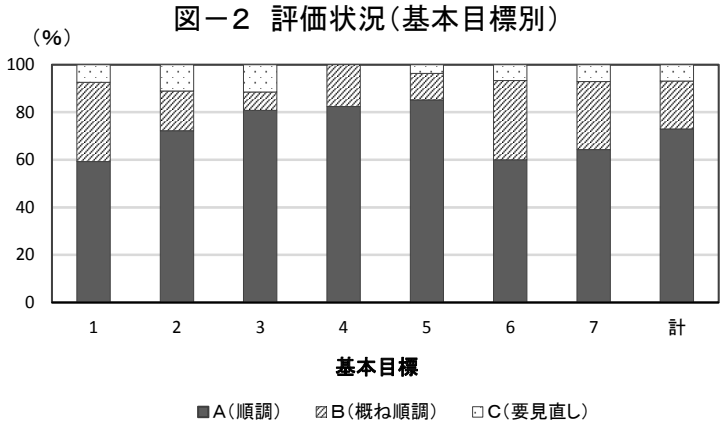
表－１　主要施策の評価結果

基本目標	評価区分						主要施策数の計
	A 順調	(%)	B 概ね順調	(%)	C 要見直し	(%)	
1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	16	59.3	9	33.3	2	7.4	27
2「経済・好循環とくしま」の実現	13	72.2	3	16.7	2	11.1	18
3「安全安心・強靭とくしま」の実現	21	80.8	2	7.7	3	11.5	26
4「環境首都・新次元とくしま」の実現	14	82.4	3	17.6	0	0.0	17
5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	23	85.2	3	11.1	1	3.7	27
6「まなび・成長とくしま」の実現	9	60.0	5	33.3	1	6.7	15
7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	9	64.3	4	28.6	1	7.1	14
計	105	73.0	29	20.1	10	6.9	144

図－１　評価状況（全体）



図－２　評価状況（基本目標別）



（２）基本目標ごとの意見・提言

１４４の「主要施策」の評価に加え、７つの「基本目標」ごとに、次のような意見・提言がなされた。

基本目標１　「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

○　移住・交流施策の推進として、「転入・転出者数の均衡」や「移住者数８５０人」の目標を掲げてはいるが、これは、ハードルが高くかなり難しいと思う。
　目標達成には、働く場、生活、教育の充実など、総合的に地域の魅力を上げていく必要がある。
　現在は、地方において人の取り合いになる中、徳島県も消費者庁の本格移転を目指すなど積極的に取り組んでいる。今後も、目標達成に向け頑張って欲しい。

○　農業の様々な分野で活躍する女性をモデルとして取り上げ、その姿を発信することによって、農業に携わる女性を増やして欲しい。

基本目標２　「経済・好循環とくしま」の実現

○　東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに藍色が採用されたのをチャンスに、国内外への藍染商品の発信を強化して欲しい。併せて、地元である徳島県民がもっと藍染商品を使用することで、徳島に来た観光客に藍を強く印象付けるような運動を盛り上げて欲しい。

○　北イタリアの農家レストランのように、徳島の豊かな自然の中で、地元の食材を使った、おしゃれなレストランを作り、全世界に向けて「阿波フードエリア」として発信してはどうか。

基本目標３　「安全安心・強靭とくしま」の実現

○　防災、減災対策については、地域防災リーダーの養成などソフト面で非常に充実してきている。また、ハード面についても、公共建築物の耐震化については、かなり進んできている。
　一方、民間の木造住宅の耐震化促進については、先の熊本地震でも住宅倒壊で死亡する方が多数いるという現状を踏まえると、なお一層の強化が必要ではないか。

○　安全・安心な食の確保については、偽装できないような制度設計も大切だが、偽装がなされた場合にそれを見抜く仕組みが必要である。生産者サイドと消費者サイドが両面から一体となって取り組む必要がある。
　消費者庁の誘致を目指す徳島県としては、是非、全国に誇る仕組みを早期に実現して欲しい。

基本目標４　「環境首都・新次元とくしま」の実現

○　剣山を「地域の宝」として次世代へ継承していくため、剣山サポーターによる自然保護活動等に取り組んでいる。
　今後は、徳島の山において、トレッキングを通じた健康づくりや森林づくりの推進など部局を超えた総合的な観点で施策を進めて欲しい。

○　地域の良好な環境づくりとして花を通して来訪者の心を癒やすため、都市公園内において官民協働で花壇を設置しているが、都市公園に限らず、広く人が集まる場所を対象としてはどうか。

基本目標５　「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

○　「６５歳以上＝高齢者」の概念払拭に向けた政策提言を数値目標として掲げているが、この概念の払拭は、なかなか県民に浸透していないのが現実ではないか。
　例えば、６５歳以上を生産年齢人口（現在は、１５歳以上６５歳未満）に入れるなど、どの部分でこの概念払拭を狙っていくかという、ポイントを絞った施策展開が必要ではないか。

○　オープンデータの利活用促進については、県だけでなく、多くの公共データをもつ市町村とも連携して公開データの充実を図って欲しい。

基本目標６　「まなび・成長とくしま」の実現

○　動画などのツールが増えたことにより、子供達の読書量が減ってきている。読解力の低下は、作文力やコミュニケーション力の低下に繋がり、大学生や社会人になっても影響が残る。
　充実した学びの推進には、読書量を増やすプログラムを、今後更に充実させていくことが大切である。

○　リオオリンピックでは、日本のアスリートが大活躍している。本県でも、トップアスリートの育成に取り組んでいるが、もっと指導者の育成や周りの環境の整備にも力を入れて欲しい。
　また、競技力向上だけでなく、怪我をケアできる専門的な指導者の配置も大切ではないか。

基本目標７　「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

○　東京オリンピックの開会式で、阿波おどりをできないか。阿波おどりの本場である徳島県として、実現に向けて取り組んで欲しい。

○　とくしまマラソンについて、年々非常に賑わいを見せており、参加者も増えている。徳島のお接待の気持ちが全国に知れ渡っているような感じがする。
　今後、とくしまマラソンについて、県内各市町村の友好都市などを通じて、一層多くの外国人の方に参加してもらいたい。そして、とくしまマラソンのお接待の気持ちを世界に広めて欲しい。

（３）行動計画への反映について

新たな行動計画として「新未来『創造』とくしま行動計画」が策定され、今年度が計画１年目の評価であるが、２頁に記載のとおり、１４４の主要施策のうち、Ａ評価（順調）又はＢ評価（概ね順調）が１３４施策と全体の９割を超えており、まずまず順調なスタートが切れたことは、評価できる。

一方、「見直し」が必要なＣ評価（要見直し）が１０施策・６．９％あることは、謙虚に受け止めなければならない。

今後、スピード感を持って早期に主要施策の目標を達成するため、全庁一丸となって取り組むことを期待する。

なお、今年度の戦略会議における評価は、戦略会議の委員の意見・提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施したところ、Ａ、Ｂ、Ｃの評価の判定に係る意見にとどまらず、施策に一歩踏み込んだ前向きな意見・提言が、８割を占めるなど、多くなされた。

基本目標ごとの意見・提言は、３頁から４頁に記載のとおりであり、評価単位である主要施策に対する意見・提言は、別冊の「新未来『創造』とくしま行動計画　主要施策等評価シート」の委員意見の特記事項の欄のとおりである。

行動計画における事業の見直しに際しては、これらの意見・提言を十分に検討していただきたい。特に、Ｃ評価を受けた主要施策については、取組内容、課題把握、今後の取組方針など施策全般を通じて、県民目線・現場主義に立って、しっかりと見直しに取り組んで欲しい。

また、数値目標の設定等について、次のような意見が出されたので、行動計画の見直しにあたって、留意していただきたい。

・　数値目標を設定しているが、評価時点で実績値が判明していないものが見受けられる。評価を行うにあたって、事業効果を数値目標（実績）から判断することができないため、別の指標の設定についても検討が必要ではないか。

・　最終年度（平成３０年度）の数値目標を既に達成しているものがあるため、数値目標を速やかに修正する必要がある。

Ⅱ　「県民からの優れた意見・提言」の採択について

平成２７年７月から平成２８年６月までに「とくしま目安箱」に寄せられた意見・提言や、同期間中の「わくわくトーク」等で出された意見の中から、次の１１件を「県民からの優れた意見・提言」として採択した。

これらの意見・提言について、その趣旨を十分に踏まえ、できる限り施策等に反映していただきたい。

戦略会議で採択された「県民からの優れた意見･提言」

	提言先	項　目	意見・提言の内容
1	目安箱	大学と一般の方との関わりについて	大学と一般の方々との関わりを強くしてもらいたい。生涯教育の流れがある中、大学という教育の場をもっと活用し、多くの人と関わることで、今日欠如していると言われているコミュニケーション能力の向上が期待できるうえ、その土地を愛することにもつながり、徳島県の人口減少を防ぐことにもなるのではないか。
2	目安箱	徳島駅に駅メロを	「駅メロ」は、その駅を中心とした街にシンボリックなイメージを与えるだけではなく、地域にまつわる応援歌や伝統曲を伝える絶好のアピールポイントともなる。 初めて駅を使う観光客、いつも駅を利用している通勤・通学客、帰省や出張でたまに訪れる人々、誰にとっても〝徳島に来た〟〝徳島に住んでいる〟という強烈なイメージを残せると思う。
3	目安箱	オリンピックオープニングに阿波おどりを	オリンピックの開会式に、一糸乱れぬ阿波おどりが登場すれば、世界中の人が注目し、絶賛すると思う。
4	目安箱	小松島港の有効利用について	小松島港周辺を、県内外からの集客を見込むバーベキューサイトにしてはどうか。オートキャンプ場やバンガローも併設できれば一層良いと思う。 また、港湾にマリーナを建設し、周辺地域からの、プレジャーボートやヨットでの来場を売りにすると話題性と需要もあると思う。県産野菜や食肉・魚・焼きちくわなどの販売も行うことで、徳島食材のアピールにもなり、売上収入も見込めるのではないか。
5	目安箱	「住んでみんで徳島奨学金」をつくり「若者移住」を	県内から県外へ進学した人に対しては「とくしま回帰」を条件に、また、県外者へは「徳島移住」を条件に、奨学金を優遇し、奨学生には徳島の魅力や就職、住まいの情報を定期的に提供し、長期休暇時には「プチ徳島留学」や「県の政策提案アンケート」等、卒業前から徳島を身近に感じるような企画・援助を行ってはどうか。

	提言先	項　目	意見・提言の内容
6	目安箱	阿波おどり期間限定のスマホアプリなど開発してはどうでしょう	リアルタイムに、どこになんという連がいるのかが全て分かる阿波おどりアプリを作成し、システムを運用してみてはどうか。
7	目安箱	コミュニティバス拡充について	県内でのコミュニティバス導入推進について、交通網の拡充は県全体の活性化にも繋がると思う。 利用しやすい時間帯に特化して最低限の便数にする、安価な小型車を使う等の工夫により、多くの地域でこのサービスが広がって欲しい。
8	目安箱	徳島を日本のビジネスが生まれる場所にする	ビジネスで利益を出し、お金・人・モノ・情報を徳島に循環させていくことが雇用の促進・税収の増加・地域の活性化に繋がると思う。 ビジネスコンテストやオーディション形式でのアイデア発表の機会をたくさん作り、世界中の投資会社や投資家を集めて資金調達し、徳島でビジネスの花を咲かせる。それを日本一の規模で行ってはどうか。1000個のビジネスから世界を驚かすビジネスがきっと生まれます。
9	目安箱	民泊について	阿波おどり期間中、ホテルが予約できなくて、高松から期間中毎日通っていたと聞いたことがあるので、阿波おどり期間の前後だけでも、空いているアパートやマンションで民泊ができたら良いと思う。 民泊が認められれば、周辺の飲食店や貸し布団店などの商売も潤うと思う。
10	目安箱	Ｔ・Ｋブランド藍グッズの新デザイン募集について	藍ブランドの更なる知名度を高めるため、新デザイン商品を県民から公募し、１０点を選定して、開発・商品化し、積極的に販売してはどうか。 県民の藍ブランドに対する関心、意識が大幅にアップするとともに、東京オリンピックエンブレムの知名度とリンクして相乗効果が期待できると思う。
11	わくわくトーク	木材利用促進について	木材の利用促進には、木材に対する理解が重要である。木材利用増のために、教育施設に木造建築を導入し、子どもたちが将来、木材を利用したいと思えるようにすべき。

（参考）

委員名簿

	氏　　名	現　　職　　等
会　長	石田　和之	徳島大学大学院　教授
副会長	阿部　頼孝	徳島文理大学短期大学部　教授
委　員	植田　美恵子	徳島女性農業経営者ネットワーク顧問
〃	近藤　明子	四国大学　講師
〃	坂本　真理子	NPO法人郷の元気　副代表理事
〃	佐和　良佳	美馬市社会福祉協議会　事務局長
〃	田村　耕一	(公財)徳島経済研究所　専務理事
〃	鳴滝　貴美子	和田島漁業協同組合女性部　部長
〃	南波　浩史	徳島文理大学　教授
〃	橋本　延子	女性林業研究グループ「那賀川こまち」　会長
〃	浜口　伸一	(株)ハマグチ　代表取締役
〃	藤原　学	(一社)徳島県労働福祉会館　理事長
〃	桝本　久実	税理士
〃	森本　長生	(株)道の駅日和佐　駅長